

# ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.593

2024年 1月

## 「新幹線にも歴史あり」

令和5年末には写真上から「こだま500系」、「こだま500系(ハローキティ号)」、「こだま700系(レールスター)」、「ひかり N700系」の4系が東広島駅に停車します。みなさんがお世話になった団子っ鼻の愛称で親しまれた0系、100系、300系の「こだま」はいつの間にか姿を消し、すでに昔話となりました。交通機関の郷土史にも時には目を向けて見てください。令和6年3月には変化があるかも知れません。  
(写真と文 船越雄治)



こだま500系



こだま500系 (ハローキティ号)



こだま700系 (レールスター)



ひかり N700系

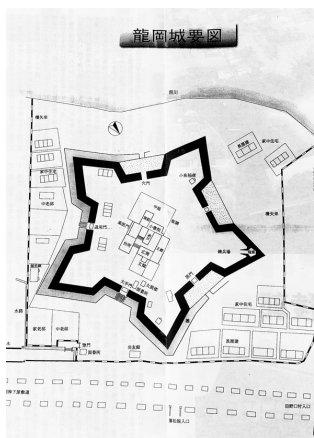
## 12月例会報告

今年最後の例会が12月9日(土)、東西条地域センターで行われ、23人が参加した。研究発表では、いわゆる、“乗り鉄”である宍戸元文氏が、これまでに鉄道を使って訪れた全国の城を紹介した。テーマは「乗り鉄—鈍行で行く城めぐり」。

発表の冒頭では、「青春18切符」の紹介や使い方の説明も行われた。上手く使えば、1日2410円で、西は長崎、東は水戸や金沢まで行けるお得な切符で、5枚綴りで販売されている。利用可能期間が定められていて、その期間内で楽しめる。ただ、利用できないエリアもあるので、下調べをした上で利用すると無駄なく利用できそうだ。

宍戸氏はこの切符をうまく使って旅行費を抑えながら、城めぐりを行ってきた。その中から、南は首里城から北は五稜郭まで、21城について写真を見ながら説明された。

特に印象深かった城としてあげられたのは、函館にある五稜郭と同じ形をした龍岡城。この形は星形稜堡と呼ばれるもので、日本に2つしかない。龍岡城の所在地は長野県佐久市。東京から高崎へ行き、しなの鉄道、小海線と乗り継いで、最寄駅である龍岡城駅へ到着したそう。



ご自身と同じ名前の宍戸城も紹介された。茨城県笠間市にある城で、この城を最初に築いた宍戸氏は、毛利氏と共に戦った宍戸氏のルーツでもあるという。発表者の宍戸氏が、宍戸駅の駅名標と一緒に映った写真が印象的だった。

また、特徴のある列車の話も興味深かった。津軽鉄道のストーブ列車は、暖房のため、客車にだるまストーブを乗せていて、スルメを焼いてくれるサービスもあるという。

鈍行をあえて使って、その不自由さを楽しむ旅は、目的地で歴史を学ぶこと以上の達成感を与えてくれるものだと感じさせてくれる発表であった。

## 1月例会のお知らせ

日 時 1月27日(土) 13:30~  
場 所 市役所北館 市民協働センター  
研究発表 「日本最後の酒都」

木村浩男氏

第45回県史協大会報告  
鉄板張りの天守・福山城

光田 清志

第45回広島県郷土史研究協議会福山市大会が令和5年(2023)11月11日(土)福山市の「まなびの館ローズコム」で213名参加のもとで開催され、本会からは19名が参加した。

## 1. 県史協福山市大会

大会は9時30分から始まり、開会式、総会のあと、福山市文化振興課の榑次長から「福山城天守の鉄板について」、続いて福山市立大学の八幡教授から「福山藩の地域形成」について講演があった。最後に当会の赤木会長から来年度大会への案内のあと、閉会式が行われた。

午後は臨地研修として、福山城に移動し、各グループ毎に福山城博物館の見学と、福山城本丸・二の丸を周遊し、福山城ガイドの方から各史跡等について説明いただいた。

## ①講演「福山城天守の鉄板について」

福山市の榑次長の講演では天守の鉄板張り等の復元に当たっての担当者としての苦労話が語られた。福山城天守は国宝に指定されていたが、昭和20年の福山空襲によって焼失し、昭和41年に鉄筋コンクリートで再建されたが、このときは鉄板張りは再現されなかった。西国鎮衛として幕府の威厳を示すため10万石では考えられない規模の巨城であった福山城。その北側壁面は、敵からの攻撃に耐えられるよう1階から4階まで総鉄板張りで、全国でも唯一であった。築城400年記念事業の令和の大普請において、旧天守の造りや姿を、古写真や記録に基づいて総鉄板張りに復元された。



## ②講演「福山藩の地域形成」

福山市立大学の八幡教授の講演は、開府400年の節目を迎えた「福山藩」の歴史的・文化的特質について、福山藩前期(水野時代)、同中期(幕府領・松平時代)、同後期(阿部時代)の3時期に分けて説明された。前期は関ヶ原の

戦い後、福島正則が芸備両国の太守となったが、元和5年（1619）に改易になると、備後国南部7郡を中心に10万石が水野勝成に与えられ、福山藩が成立した。それは幕府にとって、外様大名が点在する西国の中に楔を打ち込むかたちで、地政学でいう「西国鎮衛」の政治的・軍事的拠点として位置付けられた。入封した勝成は、新領国の経営拠点となる「福山城」の築城と城下町「福山」の建設に取り掛かる。築城にあたっては、幕府から伏見城の御殿・湯殿・大手門・筋鉄門などが下賜され、1622年に竣工した。福山の城郭は南面して、東・南・西には堀を二重に巡らし、搦手は小丸山・天神山が天然の防壁をなし、吉津川に臨み両社八幡のある永徳寺山を北方の固めとしている。天守閣の北面の壁には鉄板が張られていた。芦田川下流の三角州に立地する城下町では、上水の確保は重要で、上水道の工事も進行した。福山の礎を築いた水野氏の治政は、約80年にわたった。

中期は幕府領となり「元禄検地」の結果、15万石余との判定により、5万石が減じられた。続いて領主となる松平氏、阿部氏にとっては財政上厳しいものとなった。

後期は阿部氏に替わり、約160年間で10代にわたった。阿部氏は幕府の要職を歴任した有力譜代であり、うち4人は老中の地位にまで昇り詰めている。幕閣を務めた阿部氏は、江戸定府を基本としたため膨大な経費に係る上に、江戸時代後半期に頻発した天候不順や災害による年貢減少もあり、慢性的な赤字財政に陥っていた。相次ぐ一揆に藩は無力であり、豪農商層を軸とした農民の救恤を目的とした相互扶助機関の「福府義倉」が藩の庇護を受けて創設された。義倉は廃藩置県後も存続し、福山地域の社会的発展に多大な貢献を果たした。阿部氏の特筆される人物としては、阿部正弘（1819～1857）である。1853年にペリー率いる黒船が浦賀沖に來航した際、老中首座として国難に対処し、翌年に「日米和親条約」を締結して開国へと舵を切った。正弘は人材の養成と登用を重視し、家臣の反対を押し切って登用制度を一新した。

その後、1871年7月には廃藩置県により「福山県」になったものの、同年11月には小藩の多かった備中諸県を統合して「深津県」となり、1875年には笠岡へ県庁が移転となり「小田県」となった。さらに1875年に「岡山県」へ併合され、1876年には備後6郡を分離して「広島県」へ移管され、現在に至っている。



## 2. 臨地研修

臨地研修では、福山城に移動し、当会のメンバーは、最初に福山城天守閣にある博物館を見学した。続いて、ちょうど併設されていた菊花展の菊の福山城と本物の天守をバックに記念写真を撮り、そのあと福山城ガイドの案内で本丸、福寿会館の庭、二の丸と周遊した。

### ①福山城博物館

天守閣がまるまる博物館となっており、エントランスは地階で、福山城ものがたりを上映していたが、時間がなく素通りした。1階は企画展示室で福山城の歴史に沿ったテーマの資料を展示していた。2階では一番槍レースや火縄銃の体験ができるようになっていた。順番待ちで並んでいるため、横目に見ながら、3階に進んだ。3階では阿部正弘の活躍をグラフィックで紹介している。4階には大型3面シアターがあり、水野勝成のまちづくりなどの映像が上映されていた。最上階の5階は天空の間と呼ばれ、福山市内を360度見渡せた。下りはエレベーターで一気に出口に向かったが、急いで最上階まで登ったため、足がガクガクになった。

### ②福山城本丸・二の丸

当会のメンバー全員が博物館から出てくるのを待ち、天守閣をバックに記念撮影後、福山城ガイドの方の案内で本丸から周遊した。まず、本丸の北面に回り、天守北側壁面の鉄板張りを確認した。そのあと、旧天守の礎石を眼下に眺めながら、天守の北にある福寿会館の庭園を見学した。福寿会館は海産物商として財を成し「鯉節王」といわれた阿部和助が昭和初期に建築しており、伝統的な日本建築の和館と茶室、ルネッサンス風の洋館は現在貸館として利用されている。敷地内の回遊林池式庭園を回遊した。次に二の丸の東にある水野勝成公の銅像を見学したあと、京都伏見城内から移建したと伝わる月見櫓を見学した。月見櫓は明治初め頃に取り壊されたが、1966年に再建され、令和の大普請で外観・内装等を改修している。御湯殿も伏見

城から移建したと伝わる建造物で、国宝に指定されていた。石垣の上に張り出した珍しい建築方法で造られている。伏見櫓は伏見城松の丸にあったものを福山城に移築した痕跡が残る貴重な建物で国の重要文化財に指定されている。筋鉄御門は福山城の正門で築城当時の姿を今に残し、国の重要文化財である。二の丸西側には阿部正弘の銅像が設置されている。

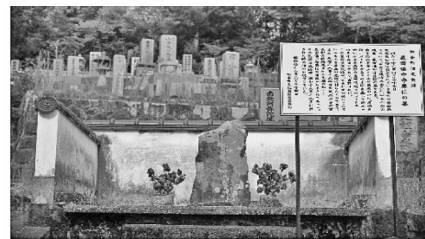


#### 5. 中の埤（たお）池

中の埤池は、上池、中池、下池の、三つの池があり大切な農業用水です。春はつくし・蕨、初夏には黄色のサイジョウコウホネが咲き、魚釣りも楽しめた峠、今は堰堤に柵がめぐらせてあり、訪れる人もなく残念です。

#### 6. 平泰寺（臨濟宗）

大永3年（1523）の鏡山の合戦で切腹した蔵田房信の供養碑や忘れられている一石五輪塔、板碑など昔と今の墓に温故知新をみんなで学びました。



### 第67回山城探訪会

## 西国街道の飢坂～下寺家の里山探訪

大森美寿枝

9月11日に6人でコースを下見。

10月7日に参加者11人で実施しました。

探訪コース順に紹介します。

1. 道の駅「西条のん太の酒蔵」集合  
2022年7月15日寺家にオープン。
2. 北に上がる新しい自動車道の歩道を楽々と。  
東に寺家産業団地～西に刈又池など眺望して、音戸工作工場が見えてくると、にこにこ公園。
3. 国鉄のレール材修場跡の記念碑  
昭和29年まで、材修場で溶接されたレールが西条～八本松間に敷かれたのを記念して建てられています。八本松駅より材集場までレールが敷かれ山陽本線が電化されるまで、瀬野～八本松間を走る列車を後押しする機関車などの修理や、乗り心地を良くする長尺レールの製作などが行われていましたが、知る人も少なくなっています。

#### 4. 飢坂（かつえざか）

近世の西国街道で八本松飯田と西条寺家の境。名の由来は2つあり、1つは古代の西条に牛万長者がいて、長者の田植えが朝から夕方までかかりこの坂で空腹になり飢えたから飢坂と言った伝説。もう1つは、飢饉のときに飢えて飯田から寺家へ逃げて来た人に炊き出しをしたという伝承です。

ちなみに、この地は釜の河内という地名です。

#### 7. 古屋の畦道や里山の小路

脇さん（田上屋）宅の畦道を通らせていただき、竹藪や畑には西条柿が熟れているなど楽しく歩きました。通り道は草刈りがしてあり脇さんに感謝。

#### 8. 古屋城跡（眺望）

立地・先端丘陵、標高230m、比高15m。

東郭群と西郭群に分かれている平城跡。4年前に探訪しましたので今回は紹介のみでした。

#### 9. 新宮神社

何回も訪れていますが改めて紹介します。

大同2年（807）創祀、本殿は三間社入母屋造の市重要文化財です。他に幣殿、拝殿、神楽殿、宝蔵、社務所、鳥居、神武天皇御腰掛石・手水鉢・盃状穴などいつ行っても拝観できます。

宝物は隨身像一対、木造狛犬一対、毛利元就が尼子攻めの時に奉納した神鏡一面などありません。

昨年は本殿などの修復工事が行われています。

#### 10. 寺家城跡（眺望）

立地・平地、標高242m、比高10m。

南北にほぼ長方形、周囲を土塁と堀、北西と南西も土塁で防御していたようです。

鏡山城に近く、寺家の重要な平城でした。以前に探訪しましたが、興味は尽きません。

## 11. 道の駅「西条のん太の酒蔵」ゴール!

探訪距離は約6キロゆっくり歩いて約3時間でしたが、吉田リーダーがゴールして歩けなくなり救急搬送され皆驚きましたが無事回復され安心しました。

皆様、これからも一步一步楽しく歩きましょう。

## 【広島を歩いたベトナム象 5】

### —旧山陽道の難所・大山峠越え—

赤木 達男

享保14年4月8日、西暦1729年5月5日、海田宿を出発したベトナム象は、旧山陽道最大の難所、大山峠を越え西条四日市宿をめざす旅程に入ります。いつもの朝五つ半時よりもやや早めに出立したのかも知れません。

広島市企画総務局作成の「ひろしま8区ぐるっと散策『道めぐり』」に記載されている海田宿から西条四日市宿までの道程図を、次ページに借用しました。

穏やかな日和に恵まれ、瀬野川沿いの西国街道を東へと進んだことでしょう。「出迎え松」(注1)を過ぎた辺りから山手に入り、だらだらと続く上り坂に入りますが、まだまだ何のことはありません。西国街道は瀬野駅手前を右折、国道2号線を越え東に向かいます。安芸区一貫田の一里塚を通り、再び2号線を越え、龍善寺辺りから2号線の左山手を東に向かいます。

### ちょっと脇道、御藺宇に縁の寺を訪ねて

ちょっと話しは逸れますが、この龍善寺について紹介します。安芸区上瀬野と志和町奥屋の境に座す標高494.8mの八世以山(やせにやま)の麓に治安2年(1022)に天台寺として開基され、その後禅宗を経て浄土真宗に帰依し、16世紀半ばに現在の地に移っています。

境内には樹齢400年、幹周囲3.8m、樹高21mの大公孫樹(大イチョウ)がそびえ、無数の盃状穴(はいじょうけつ)の開く珍しい形状の手水があります。



(無数の盃状穴の開いた手水)

裏手に回ると、江戸初期に賀茂郡御藺宇村十文字の新田開拓を指導した広島藩士・島本仁左衛門の墓があります。

仁左衛門は福島正則の改易に伴い紀州から広島藩に移った浅野長晟の家来、新田開発奉行として御藺宇村の新町を開拓。その名は「新町」

という地名とともに今も残り「恩人」として敬われています。

ベトナム象の足跡を辿る途次、わが家近くの御藺宇新町に縁のある人(墓)と出会った奇遇から、寄り道をしてしまいました。

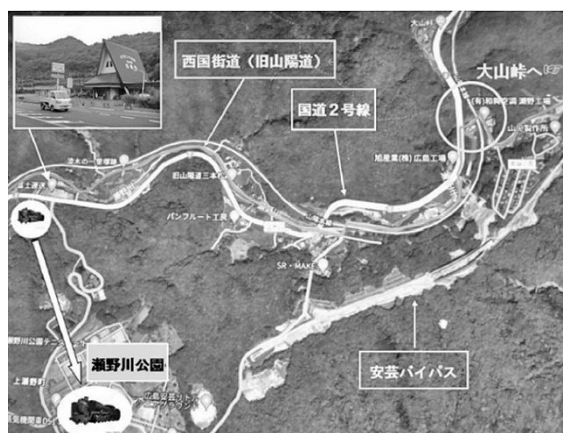
話を戻します。

一貫田は中世の世能庄の中心で鎮守の平山神社の麓に発展し、近世には海田宿と西条四日市宿との間に位置する間の宿(あいのじゅく)となり本陣も置かれ、俳人の種田山頭火の歌碑が残されるなど賑わった宿駅です。

### 西国街道随一の難所、大山峠

一貫田から上り坂を進み、かつてあったドライブイン前にSL「D51」が鎮座していた辺りから右手に進むと大山峠に差し掛かります。「D51」は直ぐ近くの瀬野川公園に移されています。

大山峠は安芸郡と賀茂郡の境にある標高337m、麓からの比高は約250mと西国街道随一の難所です。「瀬野川史跡案内図」には「瀬野馬子唄発祥地」と「代官おろし跡」が記されています。



(「Google Earth」を活用して作成しました。)

「代官おろし跡」は余りにも急な坂のため代官様も駕籠を降り、付き人に後ろから押しってもらってようやく峠を越えたとのこと。駕籠を降りた場所と伝えられている辺りに安芸ライオンズクラブが建てた碑があります

瀬野馬子唄は、この急な坂を一石5斗(約225kg)の米を背に振り分けた馬を曳きながら、「瀬野の三里とエー、大山の峠とヨー、大須なわてがなげにゃエー。瀬野の馬さはエー、金つき馬でヨー、夜になってもせいをだす」と唄ったということです。当時の馬は金つき馬と呼ばれる去勢されていない馬で、大変扱いが難しかったそうです。いずれの碑も西日本豪雨災害で壊れたため新たに作られています。



(出展：広島市企画総務局作成の「ひろしま8区ぐるっと散策『道めぐり』」より)

ところで、体重3トを超え背丈5尺7寸(約173cm)だったと伝えられるベトナム象、とても象のお尻を押すことはできません。ベトナム象はどのようにして大山峠を登り切ったのでしょうか。…

### 「西日本豪雨災害」で壊された大山峠

昨年12月1日、東広島郷土史研究会の「石造物研究会」のメンバー4名で大山峠を探索しました。リーダーの船越さんがベトナム象を追っている私のために特別に企画してくださいました。

右の写真はそのとき撮ったものです。5年前の西日本豪雨の爪痕も痛々しく、砂防ダムが建設されていました。



その下の写真は前掲の「ひろしま8区ぐるっと散策『道めぐり』」に掲載されていた「大山峠の峠道」です。新たに付けられた舗装道がこの峠道に当たるのかは分かりません。



左上の写真は土砂に流されたのか「代官おろし」の碑が新しく建てられていました。右上は旧山陽道賀茂郡と安芸郡境の碑です。右は広島市の『道めぐり』に掲載されていた豪雨災害前の写真です。



ベトナム象が約300年前に通った大山峠はどのように著しく破壊され、辿ることができませ

んでした。

西国街道(旧山陽道)が現在どのようになっているかが分かるのが下の2枚の写真です。「旧山陽道(西国街道)のルート情報」の「Google Earth」から引用しました。

上の写真中央を横に走っているオレンジ色が西国街道(旧山陽道)です。上の写真の右上部分に巨大な砂防ダムが築かれています。

下の写真のオレンジは砂防ダムから西条四日市宿に向かって延びている西国街道で、右隣の円には当時、八本松西で工事が進んでいた東広島・瀬野バイパスが写っています。



次号では旧山陽道最大の難所・大山峠を越えたベトナム象が、西条四日市宿に入るまでの旅程を見て行きたいと思います。(つづく)

(注1)「出迎えの松」：参勤交代制度で一年間の江戸勤めを終えて国に帰る藩主が、最後の宿泊地西条四日市を発って広島城下に入る際、留守を預かった家来たちがこの辺りまで出迎えたことに由来していると伝えられています。

### 【八本松探訪13】

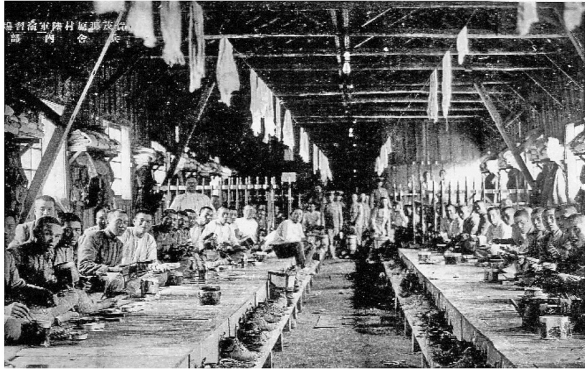
#### 軍事施設 1 原村演習場 (2/2)

天野浩一郎

#### 5. 戦後の演習場

①昭和20年(1945)兵士達は、米軍の指令で歩兵砲・機関銃・小銃などを集め引渡の準備をし

た後、身の回り品・毛布などを持参し、八本松駅・河内駅に向かって帰還しました。(台風の被害で八本松駅～河内駅が不通で、上り列車は河内駅から乗車)



兵舎内部 (写真: 菅野晃行氏提供)

②昭和21年、占領軍はオーストラリア軍が米軍から引き継ぎ、原村演習場の接收を宣言しました。

川上弾薬庫の大量の火薬が演習場で爆破処分され、周辺の家屋は屋根瓦が落ち、壁は倒れ、障子や雨戸が飛ばされる被害が発生しました。

③昭和23年には演習により山火事が発生し、曾場平山麓から山頂まで焼失しました。

④昭和25年(1950)朝鮮戦争が勃発し、翌年に「英連邦第一線部隊戦闘教育学校」として700名～1000名の兵隊が日夜演習を行いました。

⑤演習により次のような災害が数多く発生しています。

- ・激しい軍事演習で定平山、汗平山、経堂畝などは、砲弾の破裂により緑の山は赤茶けた山に変貌しました。演習場や近辺の山林で度々山火事が発生し、130町歩に被害が及びました。
- ・農業用水の水源である山は、山火事・砲撃爆破により荒れ、雨が降れば河川は溢れ、溜池は土砂で貯水量が減少し、旱魃の被害が発生しました。

#### ⑥災害の補償

昭和23年以来、三好善一村長は激化する演習とその被害の増大に陳情を続け、県知事も事情を了承し村長共々補償要求に尽力します。また、三好村長の後継村長も同様に補償の請求に力を尽くしました。

当時は補償の方法がなく、損害状況、損害金額等を詳細にまとめ国に陳情するのみでした。

- ・損害対象＝被弾による立木・林地の損壊、林道の被害、松茸発生停止、河川水源地崩壊、農産物の不作などの被害

・度々の陳情の結果、ようやく昭和26年(1951)に見舞金が支給されました。そして昭和28年(1953)になって林道の修理費、山林補償費が交付されました。

次いで昭和29年(1954)度に国連関係補償費により県道、村道の改修、砂防工事、河川改修工事、溜池改修の補償工事などが行われました。

#### ⑦生活、環境の変化

・演習場において砲弾、銃弾、薬きょうを拾う人が多く、他県の人も農家や西条の宿屋に宿泊し通ってきていました。婦女子、子供まで演習の後を追って駆け回り、砲撃で死亡者も出ました。

・国連軍宿舎を中心に接客女性が活動します。100名を超える組合組織を持った者や自由営業者が、民家30数軒に分宿し商売をしていました。

また、下士官以上のお囲いも20余名いた模様です。近辺にはキャバレーが4軒、飲食店、パチンコ店もありました。

#### ⑧教育問題

次のようなトラブルが数多く発生しました。

- ・兵士が夜間に民家に来て、女子供をからかう。
- ・演習兵が生徒に銃口を向ける。
- ・兵士が女生徒を追っかける
- ・子供が兵隊よりガムやチョコレートをもらう等

昭和28年に「原村基地教育対策委員会」が発足し他の基地の教育のあり方を視察など行いましたが、決め手になる対策は生まれなかったようです。

⑨昭和28年(1953)朝鮮戦争が休戦となり、国連軍が原村演習場から撤退します。

原村演習場は、引き続き陸上自衛隊の演習地として使用され、現在に至っています。

#### 6. 現在の原村演習場



“射撃訓練場”入口

①原村演習場は自衛隊の第13旅団(中国5県の

防衛警備、災害派遣などが任務)が主に使用し、時に米軍海兵隊が飲料水の浄化訓練を行っています。

訓練の日時は、東広島市のホームページ・無線・表示などで連絡されます。

②実弾射撃の訓練も行いますが、防音対策を取っており地域住民は苦痛を感じていないようです。

大雨が降った時土砂が溜池や川に流れ込まないように、交付金による整備も行われてきました。

③自衛隊と地域との交流

原地区の文化祭に自衛隊を招待し、自衛隊の大型車両などが展示されます。また、自衛隊は演習場内で行う自衛隊競技大会や海田町で行う夏祭りに原地区住民を招待しています。

(参考文献:「原村史」他)

来て!見て!知って!  
私の町にある歴史の跡  
Vol. 2

「白鳥羽休めの松」

西本 嘉住



散歩コースに白鳥伝説にまつわる看板が立っています。西高屋史跡案内の看板です。そこに紹介されているのは、「白鳥羽休めの松」。

日本武尊の死後、その霊魂は白鳥になって飛翔し郷村の松の木で羽を休めたと言われています。



す。正面には、伝説の舞台白鳥山がそびえる場所です。

すでに松はありませんが、高屋町の誇りである伝説の一端が、看板によって後世に伝えられています。

図書室に新しく本が寄贈されました!

六反穂 輝清さんに『日本の国宝全集』を寄贈いただきました。図書室に保管してありますので、図書室開放の時間などにご利用ください。

グループ研究会ご案内

第282回 古文書研究会

と き 1月16日(火) 13:30~  
ところ 市役所北館 市民協働センター  
テキスト 村の事件 (其の壱) ⑤

第181回 石造物研究会

と き 1月23日(火) 13:30~  
ところ 市役所北館 市民協働センター  
内 容 第4回石造物探訪会資料検討

第182回 四日市町並研究会

と き 1月8日(月) 13:30~  
ところ 歴史広場 吟古館  
「酒都西條」編集作業

第69回 山城探訪会

と き 1月20日(土) 13:30~15:30  
ところ 三ツ城地域センター  
内 容 新春座談会と紙芝居

原爆資料保存研究会

と き 1月18日(木) 14:30~  
ところ 市役所北館 市民協働センター

1月の図書室開放

と き 1月19日(金) 13:00~15:00  
ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース  
第593号

令和6年(2024)1月5日発行  
編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235

E-mail: akatatu@d4.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234

E-mail: kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303

E-mail: mase shinobu@yahoo.co.jp